

海と山の1万年

～縄文早期の生業と社会～

栃原岩陰遺跡・取掛西貝塚・大峰山遺跡

海と山への適応 広域な資源流通 集団の移動と回帰



海からもたらされた貝製品（長野県栃原岩陰遺跡）



東北地方からもたらされた土器（栃木県大峰山遺跡）



東京湾東岸最古の貝塚（千葉県取掛西貝塚）



記念講演「晩氷期と完新世初頭の間：オーストリア・チロール地方とその周辺地域の景観と考古学

D. シェーファー（オーストリア・インスブルック大学教授）

発表1「縄文早期の生業と社会をどう考えるか」阿部芳郎（明治大学黒耀石研究センター長）

発表2「栃原岩陰遺跡の調査」藤森英二（北相木村教育委員会）

発表3「取掛西貝塚の調査」石坂雅樹（船橋市教育委員会）

発表4「動物遺体からみた海と山の生業」樋泉岳二（明治大学黒耀石研究センター員）

利渉幾多郎（名古屋市立向陽高等学校）

発表5「植物遺体からみた海と山の生業」佐々木由香（明治大学黒耀石研究センター員）

発表6「安定同位体を用いた古食性の特質」米田 穰（明治大学黒耀石研究センター員）

期日：2017年10月29日（日曜日）9：30受付開始・10：00開演 17：00終了

場所：明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント1F グローバルホール

参加形態：先着順100名（事前の受付予約はしません）・参加費無料・無償配布資料有・一般参加も歓迎します。

お問合せ先：明治大学資源利用史研究クラスター 03-3296-1873